

離島の図書館事業（島根県海士町）

事例の概要（事業名：島まるごと図書館事業）

“図書館のない島”というハンディキャップを逆に生かし、島の学校（保育園～高等学校）を中心に、**地区公民館や港など人の集まる施設を図書分館と位置づけ**それらを**ネットワーク化**することで、島全体を一つの「図書館」としていき、物を調べる、本を読むなどの楽しさを知っていただくと同時に**地域全体での教育振興につなげる**。

事例の内容

事業主体：海士町教育委員会

事業内容：学校、保育所、診療所、福祉施設等**12拠点**（図書コーナー）と**地区公民館**へ宅配便として健康相談などと合わせ**司書配置**（図書館司書、学校司書、宅配司書等）

取組経過：平成19～23年度までの取組み概要

- 保育園・小学校・中学校・高等学校図書への司書配置及び環境整備
- 学校における図書館活用教育の推進
- 地区公民館分館の開設、港「キンニャモニャセンター」・保健福祉センター「ひまわり」の分館開設
- 図書館事業の推進体制づくり
- 人材育成（一般・ボランティア・学校・図書館関係者向け研修会等の実施）
- 中央公民館図書室の環境整備・蔵書の充実（平成19～22年秋）
- 平成22年10月、海士町中央図書館がオープン

総事業費：平成23年度 12百万円（うち過疎債 4百万円）

事業の効果：平成23年度末蔵書数14,509冊 入館者数6,151人（中央図書館）

＜事業写真＞



＜図書館エリア図＞



ポイント

【過去】 [公民館の一角に図書コーナーがあるのみ] [離島のため隣町の図書館利用もできない] [図書を知らずに育つ島民] [読書環境の格差、情報格差]

【現在】 [図書拠点の増] [蔵書増(3千冊→14千冊)] [ニーズに応じた読書] [子どもの読書活動充実] [人材育成推進] [集落住民への読書機会充実] [行政各部門と連携強化(情報の収集と発信)] [一貫した方針による効率性]



- 人づくり・まちづくりを支える情報拠点
- 子どもの学力向上

島まるごと

＜参考＞図書利用の指標

- ・貸出登録率：21%
- ・島民1人当たり貸出数：3.3冊
- ・貸出密度：15.7冊
- ・蔵書回転率：0.5回
- ・島民1人当たり蔵書数：6.2冊